



医療法人  
社会福祉法人

養和会

No. 257

令和3年2月発行

# きやらぼく



医療法人養和会は設立70周年を迎えます。

※表紙写真は、認知症病棟のスタッフです。

## CONTENTS

- 養和会レポート
  - ・ 医療法人養和会設立70周年
  - ・ ぜんざい作り
  - ・ 認知症病棟
- information
  - ・ 養和な人 - 今月のエキスパート!

養和会グループの求人募集はこちらから →

engage 養和会

🔍 検索

養和会グループはengageを利用しています。

医療法人養和会は、設立70周年を迎えます。

**70**  
th  
ANNIVERSARY

Vol.1

昭和26年～昭和35年



廣江和一初代理事長・院長

昭和5年、廣江和一によって米子脳病院を開院後、財団法人米子病院（現鳥取大学医学部附属病院）と名称が似ていることから昭和18年、広江病院に改称。昭和26年、医療法人制度が法制化され、同年7月10日、「医療法人 養和会」を設立した。当時、全国で多くの医療法人が設立されたが、そのほとんどが出資者の持ち分である社団法人だった。しかし、それをあえて持ち分がなく、創設者の寄付による財団法人にしたことは、地域に開かれた医療機関に育て上げたいという創設者・廣江和一の強い信念があったからだ。

＊＊＊ぜんざい作りをしました＊＊＊

お正月のお菓子作りとして急性期病棟で1月15日(金)、精神療養病棟で1月20日(水)、ぜんざい作りを行いました。ヘルシーな食材でもある豆腐を使って、だんごをこね(豆腐を使うと時間がたってもやわらかく食べれます。)

喉につまらないように小さく丸めたおだんごで、抹茶を使った緑色と白色のとてもかわいらしく出来上がったぜんざいに、ご利用者からは「甘さがちょうど良い」「おいしい!」と声が聞かれ、季節の味を楽しみました。



養和病院敷地内でとんどさんが行われました

毎年恒例行事となっている上後藤地区の「とんどさん」が1月10日(日)、養和病院の職員駐車場で開かれました。今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仁風荘への左義長まわりは中止するなど規模を縮小しての開催。年末からの大雪で、あたり一面が真っ白の中、糺神社の宮司による神事のあと、お正月に飾った門松や正月飾り等を焼き、今年1年の福德を願いました。



# ご利用者も職員も笑顔に。

養和病院の認知症病棟では、昨年5月にCHAXがオリジナルで製作したストレッチのDVDを活用し、「コミュニケーション」と「体のリハビリ」を日中のプログラムに組み込み、ご利用者だけでなく、職員にも笑顔が広がっている。

## 今後さらに増加する認知症

2015年の厚生労働省の発表によると、2012年における認知症の有病者数は約462万人。65歳以上の高齢者の7人に1人が認知症とされ、高齢者の増加とともに、今後さらに増加が見込まれている。

そのような中、日本神経学会は、認知症の治療指針を2017年に改定し、「治療は認知機能の改善と生活の質向上を目的として薬物療法と非薬物療法を組み合わせよう」とした。

## リハビリによる変化

「おはようございますー」。25人のご利用者が集まった部屋でみんなの前に立ち、職員が一人一人の名前を呼びながら話しかける。職員とご利用者とのやりとりが20分以上も続いた後、DVDに合わせて体の体操を始める。その部屋には職員とご利用者が一緒になっ



て体を動かし、ご利用者も職員も笑顔がこぼれていた。

2020年5月、家でのストレッチに役立ててもらおうとCHAXが製作したオリジナルDVDを法人内の各部署にも配付。そして、この認知症病棟では、そのDVDを機に「頭のリハビリ」と「体のリハビリ」を開始した。

体操の時間中は、一人の職員が2、3人のご利用者を担当することで、個々に合った体操ができるようにし、



DVDを見ながらの体のリハビリ体操

「ご利用者と一緒に楽しむ」時間を設定した。

これまで、午前午後と作業療法を中心としたリハビリを行ってきたが、この度、新たにこの体操をプログラムとして取り入れて約8ヶ月間。ご利用者に変化が表れ始めた。日々の体操が自信、安心感へとつながり、言葉や笑顔が増え、以前に比べ、夜起きるご利用者はほとんどなくなったという。

## 多職種チームで診る

多職種協働で診る。近年、このようなキーワードをよく耳にする。当棟では、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、放射線技師、歯科衛生士、社会福祉士ら10職種が集まるカンファレンスを行っている。薬剤の調整や日中の様子の情報共有など、一人一人のご利用者に対して多方面からのアプローチを行っている。ご利用者の退院を見据えた入院生活をどのようにして過ごすか、日々模索している。

## 楽しい職場に

これまで、ご利用者とそのご家族が病棟内で一緒になってレクリエーションを行うこともあったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための面会

制限や外出制限等により、病棟内の活動の中で、できるだけご利用者の心に寄り添えるよう心がけてきた。

そして、2020年度の病棟目標として、「よりご利用者一人一人に対応する。」と掲げた。この8ヶ月間について、当棟の松本課長は「毎日、同じ時間に職員も全員集合し、「コミュニケーション」と「体操」の場を設定したことで笑いが増え、ご利用者、職員の双方にとってメリットとなった。」と振り返る。



松本正樹課長

当棟に所属する准看護師2名が、正看護師を目指し、3月から学校に通う予定だ。職員には楽しく働いてほしい、そう話す松本課長の思いが病棟内の雰囲気につながり、職員のモチベーションは高く、何よりも職員が楽しそうに働いている。きっと、その姿はご利用者にとっても良い環境となっているだろう。

## 新年会を開催しました！

1月14日(木)、通所リハビリテーションセンター仁風荘、デイサービスセンター仁風荘の新年会を開催。ゴスペルオーブメンバーであり、養和会職員でもある二人に、「見上げてごらん夜の星を」「故郷」など、7曲の歌を披露してもらい、会場は感動に包まれた中、最後にはアンコールも出るほどでした。その後、職員の笛演奏による曲あてクイズで盛会のうちに会を終えました。



### 今月のエキスパート Vo.11

*This month's expert*

## 養和な人

二人は、メンバーが未就学児から80歳代までの総勢70名もいるゴスペルオーブというサークルに所属。オーブとは「みんな一緒に」という意味で、ゴスペルをみんなで一緒にという思いで元気・勇気・笑顔の歌を届けることをモットーとしている。これまで、結婚式の聖歌隊、幼稚園、施設等への訪問、鳥取県芸術宅急便の講師として学校への指導も行っている。コロナが終息し、一日も早く制限のない環境で「笑顔の歌」を届けることができることを願う。

二人の趣味は共通して「音楽・歌う」こと。同じゴスペル教室に通い、偶然にも二人とも養和会職員。音楽を通して、人との出会いが仕事やプライベートに生かされているそう。

この度、仁風荘での新年会で歌を披露した二人は「この場で歌えることがとても嬉しい。職員にも歌を聴いてもらい、このような機会をいただけたことに感謝している。」と笑顔いっぱい話してくれた。



事務職員として総務課で勤務。採用、退職手続き、勤怠管理等の人事系の仕事に就き、ITを使って職員がスムーズに手続きを行う事ができるようにする等、事務書類の手続き関係を行っている。



鶴見香織

所属：法人本部・総務課  
職種：事務(平成17年入職)  
ゴスペル歴：17年

看護師として24時間・365日体制の訪問看護ステーション仁風荘で勤務。昼食時間以外は午前午後と米子市、境港市内の家を訪問し、在宅で過ごす方々の様子を伺いに訪問している。



高本美智子

所属：訪問看護ステーション仁風荘  
職種：看護師(平成21年入職)  
ゴスペル歴：20年



養和会理念

養和会はご利用者の幸せ  
地域の幸せ 職員の幸せを追求します。

こちらからHPもご覧ください

養和会



医療法人養和会 〒683-0841 米子市上後藤3丁目5番1号 TEL 0859-29-5351 FAX 0859-29-7179  
社会福祉法人養和会 〒683-0841 米子市上後藤8丁目9番23号 TEL 0859-48-0483 FAX 0859-48-0484

※写真・作品などに関しては、ご本人の了解を得て掲載させていただいております。



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。